

水俣市は

日本一の読書のまちを

めざしています

本を読むのは好きですか

どんな本が好きですか

ハラハラドキドキする

冒険の物語？

おもわずわらってしまっ

ゆかいな物語？

ひろい地球の物語？

動物たちの物語？

それともともだちって

いいなあと思う物語？

夏休み作家になって

心にうかんだ言葉を

物語や詩にしてみよう

募集期間 7月1日(金)~9月30日(金)

募集内容 未発表の創作童話 または 詩

応募資格 水俣市内に在住または通学する小学生・中学生

応募規定 縦書きで、A4サイズの400字詰原稿用紙10枚以内
ただし、詩の場合は便箋や画用紙など自由

応募方法 所定の応募用紙または作品の1枚目に①住所・電話番号
②氏名 ③年齢・性別 ④学校名・学年 ⑤作品タイトルを
明記し、作品に添えて提出

審査員 本木 洋子 さん (作家)

賞・副賞 大賞 各1編 賞状と副賞 (図書カード5千円)
優秀賞 各3編 賞状と副賞 (図書カード3千円)
佳作 各数編 賞状

入賞発表 11月下旬に受賞者と受賞者が通う学校に通知
あわせて市立図書館ホームページで発表
※受賞者は、11月開催予定の授賞式に出席

応募先 水俣市立図書館 電話63-8401
〒867-0065 水俣市浜町2丁目10番26号

この夏きみは作家になる

みなまた
環境絵本大賞
関連事業

第3回

みなまた子ども創作童話大賞

第4回みなまた環境絵本大賞 市民賞〔こども部門〕大賞受賞作品
『がごちゃいの住む水俣』 宮田 風花 水俣第二中学校2年 *平成27年10月現在

ぞぶーんぞぶーんと海は歌っている。子守唄を歌うようにゆっくりと…。

ぞわぞわ、ぞわぞわと森は歌っている。何かを歓迎するように風に身をゆだね。

知ってる？二つの音楽の中に人の声のようなナニカが聞こえる時があるって。怖がらなくとも大丈夫さ。

そう悪いことをしてなければねー。

その時は怖がらせると言うより、古い友の事を話すように祖母は言っていた。

「いい子でいなきゃあがごちゃいが捕まえにくるけんあ…」

これが祖母のログセなのだ。小さい頃から怖がりの私はこの言葉を聞くだけで震え上がった。

そんな私に祖母は、

「そんなに震えんでもよか。いい子でいりゃがごちゃいは非道い事はせんけん」

と慰めるのだ。

そんな様子を母は、懐かしそうに見て、父は娘の極度の怖がりを見てなぜか大笑いする。それが六年前からの日常なのだ。

私は今、熊本県水俣市に住んでいる。今から六年前、生まれ育った東京の地を離れて、両親の故郷の水俣へ引っ越してきた。

正直に言う、大嫌いだ何もかも。越してきた時は、少しワクワクしたけれどそんなワクワクもすぐに消えた。当時、八才の私はつまらないと思った。今もだ。

そんな水俣嫌いは大きくなるにつれてもっと嫌いになった。小学校の頃から水俣病の学習が沢山あったのも理由に入ると思う。

そんな私に四年前からもう一つ、嫌いなものがある。今年四才になった妹の日向だ。祖母のログセを私が聞いてビビリ、両親は笑う。

そして日向のなんで攻撃これが私はいやなのだ。理由はうるさい、うざいだ。

「がごちゃってなに？」

また始まった。

日向！がごちゃいだって何度目？

「妖怪だ」

で、その後は、「水俣にしかない」なんてしようが。おばあちゃんも何度目？といつも私なら心の中ではなく口に出してツッコミを入れるのだが。(それでほしい終わる)あの時の私の行動はちがった。

十四才中二、あの行動で私の世界が百八十度変わった。

「私も知りたいがごちゃいのこと」

みんながハトが豆鉄砲を食った顔をした：まあ予想していたけどね。

しばらく沈黙が続いた。

すると祖母が、

「興味を持ってくれたか。よかよか。よくがごちゃいを知りゃ怖くなくなるけん」

と一言言って、

「水俣にしかない妖怪だっていうのはもう二人とも知っとっけんねえ。だけど私の知ってることは少なくなかということをお忘れしないでほしい」

日向はがごちゃいのことをもっと知れるのだとキヤッキヤッ騒いでいる。少しづつおとなあ。

自分で聞いといて思うのだが妖怪とかのところがいいのだろう。

そう思っていた時に、

「がごちゃい又はガーク、ガクと呼ばれている姿ない妖怪のことだ。いたずら好きで暗闇から人を驚かす可愛いヤツなんさ。でもな、悪い子にがごちゃいは何処かへ連れてくと。そう怖か所へ…」

と淡々と説明した。

ってそれだけ？

「なんで姿がみえないのにいるってわかるの？」

ナイス日向！！と内心思った。

「昔は外灯なんか水俣になかったと。だけん夜になると、周りが真っ暗になっとったと。そんがごちゃいという妖怪がおって暗闇から人を化かす。と言われとるみたいやけど、なにせそう言われちよるだけみたいやけん…。でも暗い所で生まれたから姿が見えないと言いよる人はいるみたいなんよ。でも」

えっまだ続くの？

「私はがごちゃいは恥ずかしがり屋だと思つたい。いたずらをしおる子って、恥ずかしがり屋が多かけんね」

いやあ「多かけんね」って言われても。

「じゃあいまはがごちゃいなの？だってあちこちピカピカじゃん。がごちゃくらしくいとおもう…」

まあそうねえ。日向って水俣のこと大好きだからそう思うのかなあ。

「そうたいねえ。でも近くで私たちの話を聞いてるってこともあるかもしれない。水俣の自然ががごちゃいだって言う人もおるけんねえ」

日向とおばあちゃんは二人の世界に、入っている。もう少し知れたかったけど。もう何を言っても聞いてくれないよなあ。まあいいや自分で調べよう。なんか不思議だなあ。今まで怖いと思っていたがごちゃいのことが好きになりそう。はあ自分が恥ずかしいよ。日向、あなたが大好きな物を馬鹿にしてごめんね…。

(以下略)

※続きは水俣市立図書館で読むことができます